

<初級登山教室山行報告>

雪山入門『大谷山』

日程： 2023年1月14日（土）

講師及びスタッフ：T内オフトレイル）、N森（オフトレイル）、K口（滋賀山友会）

受講生：T本（滋賀山友会）、S口（滋賀山友会）、S水（比良雪稜会）、N村（比良雪稜会）、S藤（比良雪稜会）

行程： マキノピクランド駐車場集合 10：00～登山口 10：10～標高 680m地点 12：50 昼食～

下山開始 13：30～14：30 下山終了=マキノ高原温泉白谷荘で修了式

講習の内容：雪山登山

当日の天気予報は雨天で午後から次第に雨が上がってくる予報であった。午後からの天気回復を期して出発時間を遅めにして、小雨の中でのスタートとなった。

電気柵の入口がある登山口からはいきなりの急登で、地面は地肌むき出しで雪はない。標高 320m ほどのところで雪が現れだした。受講生 5 人は、先頭を 20 分交代で、現在地を地図で確認しながら進んでいった。雪は次第に深くなり、登山靴で歩くとズボッと雪面下に落ち込み、一步一步大きく足をあげないと前へ進めない。雪があると無いとでは進み方が雲泥の差だ。すぐに息もあがり汗びっしょりになる。標識やテープももちろん踏み跡も雪に埋もれているところが多く、ルートも見失いがちになるので、周りの景色を注意深く見ながら進んでいった。予定よりずっと時間がかかり、当初の予定の標高 704 地点石庭下山口…大谷山…寒風…西山林道出合…マキノ高原温泉というルートを大きく変更し、標高 680m 地点からのピストンにルート変更せざるを得なかった。

下山後はマキノ高原温泉白谷荘で初級登山教室の 2022 年度の修了式が執り行われた。記録：S 藤

【一口感想】

出発時は小雨模様でしたが登山中はほとんど雨に降られることは無く、最終到達した標高 700m 弱の地点では約 60 cm の積雪がありました。春のような温かさで琵琶湖も霞んでいましたが無事、最終の実技が実施できてほっとしています。雪山は通常の無雪期より時間を要し、雪の状態も様々です。雪の積もり具合、地形や傾斜、過去か

ら当日までの天気コンディションや積雪の安定度が左右されます。雪山も奥が深いので雪崩のメカニズムを学習し、道具の使い方に習熟してください。

全般を通じての感想です。

4月から1月まで1年近くの初級登山教室を無事終えました。実技は全て実施し、事故無く終えられたことに感謝です。試行錯誤の連続でしたが受講生の皆さんは得るものがあったと思います。私を含めたスタッフも色々と勉強になり、改善すべき点多々あったと考えています。

また、初級登山教室はこの4月からスタートします。今年は内容を絞って、実技は少しステップアップして実施したいと思っています。会員の皆さんの意欲的な受講を求めます。また、手伝っていただけるスタッフを募集します。実地でアドバイスをすることで自分の力量の確認と向上につながります。よろしくお願いします。(T内)

雪山のリスクは、場所ではなく条件によって決まります。たとえば、雪崩はこれまで発生したことがない場所だから安心というわけではなく、気温・地形・風・雪の質等の条件が揃えば、どこでも発生する可能性があります。もし何事もなく帰って来られたとしても、たまたま運がよかっただけ、ということもありえます。ですから、幅広い知識と十分な準備を持って、山に入っていただきたいと思います。

スタッフを引き受けるということは、受講生のみなさんに怪我をさせるわけにはいかないので、かなりの緊張を伴い、1年ともなれば思った以上の負担になります。それでも最後まで続けてこられたのは、みなさんの熱心な受講姿勢のお陰だと思っています。みなさん自身も、最初に比べれば格段に進歩されたと思います。また、僕自身は「教える」というほど特別な技術は持っていませんが、それでも何かを伝えるということは、1点の曖昧さもない完全な知識を持っていなければなりません。間違っただけは1つも言わなかったと思いますが、その点でも自分自身の知識を再確認するよい機会になりました。今後は、みなさんが、ご自身で1から計画を立て、最初から最後まで全て自分の責任で山に登られるようになることを期待しています。(N森)

一年間皆様お疲れ様でした。受講生の皆さんは不安な気持ちで、学科・実技と取り組まれたと思いますが、スタッフとして参加させて頂いた私も不安な所が有りましたし、勉強になる事も多々ありました。実技に関して一度も中止は有りませんでした。天候が良くない回もあり100%楽しめなかった事も有りました。そんな中でも何か一つでも、やってみようかな、興味があるなと言うのが有れば深掘して挑戦していただきたいと思います。今回締めめの雪山講習でしたが、まだまだシーズンですので、

トライして楽しまれてください。夏山に関しても、どこかの山で出会えることを楽しみにしています。（K口）

一月にしては珍しい暖かさと雨天の中、大谷山の雪山山行は、濡れた落ち葉とぬかるんだ登山道、ズボズボと踏み抜く腐った雪であまり経験したことのない悪条件の山行になりました。

しかし、歩き始めてしばらくすると雨も上がり、それはそれで残雪期のような風情で、柔らかい雪に足を取られながらプチラッセルのような体験もでき、標高が上がってくると眼下に雲海を観ることができたりと楽しさも味わうことができました。山頂に到達はできなかったけど、昼食時に雪崩のピットチェックの方法（コンプレッション）を教えてもらい、以前教わった「シャベルずり法」と違うやり方も参考になりました。

今年度初級登山教室の座学・実技に参加して基礎的な事をいろいろと教えていただき、山行の時に初心に立ち戻る貴重な経験ができたと思っています。講師・スタッフの皆さん一年間どうもありがとうございました。（T本）

雪山＝遭難、ラッセル、しんどい・・・のイメージ。朝からの小雨と相まって、気持ちはどんより。普段より荷物も多く、装備もえらく大層だ。さらに天候や雪の状態は注意深く察知し、道具装着の判断も重要となる。しかし、登るうちに雪の感覚や冬ならではの山の凜とした気配が心地よくなった。無積雪時よりも危険が増し、体力の消耗も激しいが、雪山には雪山にしかない面白さがあることに少しだけ気づけたことは幸せだ。雪山初トライの未熟な私を導いてくださり感謝です。さて、1年間の登山教室が終わってしまいました。振り返れば多くのことを教えていただき、体験させてもらいました。どれも楽しかったのですが残念なことに、横文字の道具の名前や地図読みはしばらくやらないだけですでに怪しい。繰り返し体得していくことで、やっと自分のものになるということですね。自分のことで精いっぱいでしたが、指導者の方々が常に私たちの安全に気を配られていたか今更ながら気づき、感謝の気持ちでいっぱいです。

年を重ねて普通いろんなことをしまっていく時期に、「岩」「川」「雪」・・・どんどん新しい扉を開いてしまいました。でも皆さんにお出会いできて、何歳からでもワクワクしていいかと思えました。またご一緒していただける機会がありますように。本当にありがとうございました。（S口）

最後の実技、天候は良くなかったが、時間を遅らせるなど工夫をしてくださって実施することができた。順にリーダーとして前を歩くことになったが、水分を含んだ雪で先頭を歩くとズボズボとはまってしまい、トレースもないのでなかなか進むことができなかった。

今回はアイゼンやわかんなどを使うことはなかったが、冬山は装備も多く重たくなり行動時間がかかるため、より体力が必要になる。ふかふかの雪、きらきら光る樹氷…雪山はきれいで楽しいがリスクも高くなる。安易に行動するのではなく、しっかりした指導を受け十分な準備や情報を得、無理のない柔軟な計画が求められると思う。

一年間、座学で知識を得、実技講習でいろいろな経験をすることができた。なかなか覚えられず技術はすぐには身に付かないが、常に危険が伴うという事を頭に置き、安全に山が楽しめるようにしたいと思う。一年間、大変お世話になりありがとうございました。(S水)

受講生が先頭を順番に歩いた。すぼすぼ沈んでしまい、いつも以上体力を使い、踏み跡のない雪道の歩きづらさがよく分かった。また、下ばかり見て歩いたので道を間違えた。周りをしっかり見て歩かないといけないと思った。

4月から1月にかけて登山技術と知識を習い、いろいろな経験をさせていただきました。ありがとうございました。学んだことを活かして安全な登山を続けていきたいと思います。(N村)

雨天という悪条件のなかでの講習となりましたが、雪中行動の困難さ、厳しさを体験させられた山行となりました。先頭を受講生が順番に任せられ、自分の番のたった20分ほどの歩行が、大変困難で気持ちばかりが焦りました。先頭の大変さを身をもって知る機会となりました。

私は中途受講でしたので、他の受講生の方ほど頑張っていないのですが、それでも、沢登り、クライミング体験と今までできなかった体験を沢山させてもらいました。もうこれ以上は無理だと思いかけた時に叱咤激励し、手を取り足を取り、行く方向を示して貰えたからこそ、やりきることが出来ました。その時々目いっぱい頑張れたのは講師さん、スタッフさんあってこそ。滅多にない素晴らしい体験でした。(S藤)

